

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス ひかり住吉		
○保護者評価実施期間	R6年 12月1日		～ R7年 1月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26名	(回答者数) 19名
○従業者評価実施期間	R6年 12月1日		～ R6年 12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 2月23日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「子どもは通所を楽しみにしているか」の問いに95%の方に「はい」と答えていただいた。 様々な特性を持つ利用者様それぞれが楽しめる環境を提供できていると思われる。	一人一人のしたいことができるように状況に応じて個別空間を作成し、各スペースに職員を配置するよう意識している。また、職員や友達との交流が深まるよう集団で楽しめる企画を立て、実践している。	より利用者様にあった企画や支援を行うため、アセスメントをしっかりと行い、得意なこと、苦手なことを把握し、情報のアップデートをしていく。
2	「子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか」「保護者に対して面談や育児に関する助言等の支援が行われているか」の問いで100%の方に「はい」と答えていただいた。 連絡帳や電話にてその日の様子や変化などを出来る限り細かく伝えさせていただいている結果だと思われる。	体温や体調の変化、学校での様子など聞いたことや気づいたことを記録し、保護者様へ伝えている。些細な変化にも気づけるよう職員全員で情報の共有を行っている。	気軽に相談ができる雰囲気になるように普段から保護者様との関係づくりを意識している。モニタリングや個人懇談だけでなく、随時相談をできる関係を築くために送迎時の引継ぎや連絡帳の記録は丁寧に細かく引き続き行っていく。
3	支援開始前及び支援終了後の打ち合わせと日々の支援に関する正しい記録に関しては職員全員が行っていると回答が得られた。 引継ぎや情報共有の重要性を職員全員が理解しているといえる。	支援開始前と支援後に打ち合わせを行っている。支援会議の開催も週1回以上行い、利用者の支援に関わることは社員やパートなど立場関係無く全職員で周知し、職員によって支援方法が変わってしまうことが無いように徹底している。	日々業務内容を精査し、整理することで職員間での引継ぎや情報共有を行う時間を増やしていく。 ケース会議は1名で参加することが多いが、可能な範囲で他の職員も同席し、一緒に支援方法を考えることで、より良い支援と職員の質の向上につなげていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「活動プログラムは固定化の工夫」では、16%の方が「どちらともいえない」11%の方が「わからない」という回答だった。保護者様に十分に伝わっていなかったと思われる。	一人一人がしたいことをできるように個別空間を意識した結果、利用者個人としての満足度は高まったが、全体的な企画は減ってしまったかもしれない。個別対応している中でも様々な取り組みは行っており、より保護者様に理解してもらえる方法を取る必要がある。	事業所内での企画や外出企画の様子は写真の提供、SNSを通じて保護者様へ発信していく。連絡帳の文字だけでなく、画像で見ることによって活動内容や普段の様子をより理解していただけると思われる。
2	従業者向けの評価では、実施している取り組みに対し「いいえ」と答える職員が複数名いた。共有が不十分だったと思われる。	パート職員は勤務日数の違いなどで、実施している取り組みに参加できていないことがあり、把握できていなかったことがあったためと思われる。	避難訓練や安全点検など実施した内容は記録していたが、共有しやすい場所に設置できていなかった。今後は連絡事項をまとめたノート共に記録したファイルを設置し、職員全員が取り組みについて理解できる体制を作る。
3			